

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570300667
法人名	株式会社 悠隆
事業所名	グループホーム さくらの杜
所在地	延岡市夏田町345-1 (電 話) 0982-42-2554
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 6 月 24 日

【情報提供票より】(21年6月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 9 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	有(円) ☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☒ 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	120 円	昼食 240 円
	夕食	240 円	おやつ 66 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 79 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中医院 西階クリニック 早田病院 泉歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

延岡市のやや郊外で、田園風景が残る緑に囲まれた自然豊かな恵まれた環境の中にホームは立地している。1階が有料老人ホームで2階が2ユニットのグループホームとなっている。協力医院による週4回の訪問や24時間対応の医療連携体制があり、利用者も家族も安心して生活している。運営者は人材育成に力を入れ職員を法人内外の研修に積極的に参加させ、職員も向学心に燃え介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を目指して挑戦している。利用者は職員の暖かく心のこもったケアに支えられ表情も明るく全員元気で穏やかに暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である家族等の意見の反映については、家族懇親会で職員が席をはずし、家族同士の話し合いの中から意見や不満を表せる機会を設け、それらを運営に反映させる取り組みをしている。また、介護計画の見直しは、見直された内容を介護計画に朱記し現状に即したケアが実践されている。鍵をかけないケアについても家族の協力を得て前向きに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義やねらいについて職員会議等で充分話し合い理解を深めた上で、職員全員で取り組み、サービスの質の確保向上に活かす努力をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2か月に1回定期的に開催している。会議では運営状況の報告や事故発生時の対応と家族への報告、防災訓練実施の検討等活発の意見交換を行いサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に出来るだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、家族懇親会では職員が席をはずし、家族同士の話し合いの中から意見や不満を表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の盆踊り大会やグランドゴルフの練習に参加したり、近隣の人々が立寄り野菜や花を持参する等、地元の人々との交流に努めている。今後さらに一歩進めて自治会への加入を検討し、老人会をはじめ地域行事に積極的に参加し地域との交流を深めてほしい。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で理念について話し合い、地域の中で利用者が安心して暮らし続けることが出来るよう、地域との関連性を重視した事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや職員会議で理念について話し合い、共有して具体的なケアの実践に向け日々取り組んでいる。また、理念を印刷し名札の裏に入れて日常的に理念を意識化するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の盆踊り大会やグランドゴルフの練習に参加したり、近隣の人々が立寄り野菜や花を持参する等、地元の人々との交流に努めている。	○	地域住民の一員として自治会への加入を検討し、老人会をはじめ地域行事に積極的に参加し、さらに地域との交流を深めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義やねらいについて職員会議等で充分話し合い理解を深めた上で職員全員で取り組み、サービスの質の確保向上に活かす努力をしている。また、外部評価は、職員会議や勉強会等で検討し職員全員で共有して改善に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回定期的に開催している。会議では運営状況の報告や事故発生時の対応と家族への報告、防災訓練実施の検討等活発な意見交換を行いサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営課題の相談や運営状況の報告、研修会の支援等、良好な関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく報告すると同時に、金銭管理は出納簿を作成し家族の承認を受けている。また、ホーム便りを作成し近況を添えて郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に出来るだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、家族懇親会では職員が席をはずし、家族同士の話し合いの中から意見や不満を表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の待遇面や職場環境改善に取り組み、離職や異動を最小限に抑える努力をしている。現状は離職や異動が少なく利用者は安心して生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、人材育成に力を入れ法人内外の研修に積極に参加させている。ホーム内でも2か月に1回テーマを決めて勉強会を行っており、職員は介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を目指して挑戦している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に毎回参加して勉強会や情報交換を行い交流を深めている。また、他のグループホームとも相互に視察研修を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人や家族にホームを見学してもらったり、職員が自宅や施設を繰り返し訪問する等、徐々に信頼関係を深めながらホームの雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から料理の作り方を習ったり、若い時の体験談を聞き励まされる等、多くのことを利用者から学びながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	従来の方式にセンター方式を取り入れ、出来るだけ本人の意向や希望が把握出来るように努めている。また、家族や関係者の情報も活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向や希望を取り入れ、職員会議で十分検討して、職員の気づきやアイデアを反映した利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで介護計画の進捗状況と評価を行い、見直された内容を介護計画に朱記し、現状に即したケアが実践されている。介護計画は6か月に1回の作成となっている。		毎月本人や家族の意向や状況を確認し、情報や気づきを集めて見直しが行われているが、そのまま介護計画につないでいってほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や希望に応じて、通院の付き添いや買物、外泊、特別な外出等柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としているが、ほとんどの利用者が協力医院を利用している。週4回の訪問や24時間対応の医療連携体制があり、気軽に相談や受診が出来る体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ終末期の看取りの実績はないが、ターミナルケアに対する指針を作成し本人や家族に説明している。また、研修会に参加して理解を深め関係者全体で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉かけが丁寧で、利用者の人格や誇りを損ねるような対応がないように細心の配慮をしている。また、職員には、採用時に就業規則をもとに個人情報の取り扱いについて説明し、職員も理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるが、出来るだけ一人ひとりのペースに合わせ、利用者の体調や希望に添って買物や散歩等柔軟に支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みに配慮して、刺身や郷土料理の団子汁をとり入れる等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。また、利用者と職員が同じテーブルを囲んで一緒に楽しく食事をし、食事の準備や後片付も一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望があれば毎日入浴可能となっているが、ほとんどの利用者が3日に1回の利用となっている。希望があれば足浴も行っている。		利用者の希望を引き出しながら、入浴回数も検討し入浴を楽しめる機会を増やしてほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の体調や有する力の範囲で、料理の手伝い、ゴミ出し、モップかけ、洗濯物たたみ等日々喜びのある生活ができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って、近隣の散歩、買物、ドライブ、たまには外食や全員で家族共々温泉に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが2階にあり、事故防止の観点から施錠をしている。管理者や職員は、鍵をかけることの弊害を充分理解しており、見守りをしながら記録をとったり、家族も来訪時に短時間の見守りに協力する等鍵をかけないケアに取り組んでいる。		建物の構造的なものがあり家族の心配もあって、施錠についてはかなり厳しい面があるが、さりげない声かけや見守り時間を少しずつ増やす等、なんとか鍵をかけずにすむケアは出来ないかあきらめず検討し続けてしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回避難訓練と心肺蘇生訓練を行っている。また、救急法の研修に近隣の人々が参加して交流を深め、災害時に協力が得られるように働きかけを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食品チェック表を作成し、タンパク質や野菜類等一日を通してバランス良く栄養摂取が出来ているかどうか一目で確認できる様式が作成されている。水分摂取量は、一人ひとりのおおよその量を職員が把握しており適切に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者の作った短歌や上品な絵画が壁に掛けられ、テーブルには季節の花が飾られる等、明るく家庭的な雰囲気がある。利用者はソファでテレビを見ながらゆったりと居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた生活用品やタンス、家族との思い出の写真、神棚等が持ち込まれ、利用者が安心して居心地よく過ごせるよう本人や家族と相談しながら支援している。		